

「送り梅雨」といえば、梅雨明け間近に降る雨を指す。梅雨を送り出したいと願う優しい季語に思えるが、しばしば梅雨前線が活発化し集中豪雨を伴うことがある▼「全山の一樹一石送り梅雨」。現代俳句を代表する深見けん二の作品は、目の前の山を覆う樹木や岩石の全てに、襲いかかるように降る激しい雨を詠んでいる▼まさに俳句さながら、送り梅雨が牙をむいたとしか言いようがない。西日本を中心に降り続いた記録的な豪雨は、土砂崩れや河川氾濫を引き起こす大災害となった▼5日の降り始めには数人とされた犠牲者はみるみる増加し、きのう昼すぎの死者は12府県で105人に達し、安否不明者も

越山若水

2018.7.10

80人を超えた。平成に入って最大最悪の風水害という▼県内でも週末の降りやまぬ雨に恐怖を覚えた人は多いだろう。あっという間に水かさが増す激流、奔流、濁流を目の当たりにして「巻き込まれたらひとたまりもない」と肝を冷やしたに違いない▼過去を振り返れば、梅雨末期の洪水や土砂災害はたびたび起きている。死者40人の九州北部豪雨はほぼ1年前。2004年の福井豪雨も記憶は鮮明だ▼送り梅雨は梅雨末期に出現する。その説明の通り、きのう九州北部や中国、近畿、東海、北陸の5地方が梅雨明けした。あれだけ猛威を振るった梅雨である。送り梅雨でなく、暴れ梅雨と呼んだ方がふさわしい。